

災害停電時の給電ボランティア計画概要

作成：浜田 豊

(1) 目的

災害などにより停電が長時間に及ぶことで生命・健康に重大な影響が及ぶ可能性が生じる事態となつた際に、復旧までの間に自家用車からの100V電源の提供を受けるためにその概要をあらかじめ定めておく。「絶対」とは言えないまでも一定のリスク軽減を目指す。

(2) ナーシングデイの電源需要

① 電源が必須となる機器（種類と電源容量）

○人工呼吸器（350W/260W）各1基：内臓バッテリーはないが、一定時間は酸素ボンベを使用することで代用可。

○痰の吸引器（40W～50W）：バッテリー内蔵だが、どの程度持続運用可能かは不明

○加湿器など

② 停電発生から重大な支障が生じるまでの時間的余裕

上記状況からは数時間程度かと推測される。

(3) 浜田の車両概要：三菱アウトランダーPHEV（いずれもカタログ値）

① AC100V供給コンセント×2カ所 合計1500Wまで

② リチウムイオン電池 12KWh

③ エンジンにより充電可能 ガソリン約3ℓでフル充電 ガソリンタンク30ℓ

※災害発生時に浜田が遠方に出かけている可能性もあり、またそのときフル充電、ガソリン満タンとは限らない。踏切の通行に支障ある場合など、想定外の事情ですぐに期待に沿えない可能性は常に存在する。

(4) 実施にあたっての課題

① 電源支援の必要性についての判断方法

大橋・雑賀 → 浜田

② 支援要請の方法

連絡手段：基本的にSNS（Messenger、LINEなど）

事前準備要請

電源供給が可能かの確認（車両の有無、充電されているか、燃料が入っているか、など）

前項※印のような事情もあり、危機的な状況が予想される場合、早めの調整が重要。

③ 電源供給の方法

○車両の配置：真願寺前にバックでつける（バリカーを撤去）

○電源ケーブルの動線：南側（浴室）窓よりケーブルを引き込む。電源リール必要。機器の配置によっては室内での分配用のテーブルタップが必要。

○近隣住民への声掛け：「生命維持のための電源供給中」との表示を用意しておき、そのほかの一般的需要（他の住民宅での家電製品の使用など）は遠慮していただく。（電源トリアージ）

④ 協定内容の情報共有

こうした概要を文書にしておくことで、スタッフでも共有する。